

一般社団法人日本内分泌外科学会活動報告

一般社団法人日本内分泌外科学会

理事長 原 尚人

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる
貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

- ① 甲状腺腫瘍診療ガイドライン2018年版の出版
- ② 成人の甲状腺低リスク微小乳頭癌 cT1aN0M0 に対する積極的経過観察の適応と方法:
日本内分泌外科学会 甲状腺微小癌取扱い委員会 による提言 (2020年3月)
- ③ 副甲状腺機能亢進症ガイドライン作成
- ④ 非機能性副腎腫瘍ガイドライン作成
- ⑤ 日本内分泌外科学会賞の授与と受賞講演 (毎年)
- ⑥ 日本内分泌外科学会研究奨励賞の授与 (毎年)
- ⑦ 日本内分泌外科学会誌最優秀論文賞 (毎年)

b. 当該領域における国際的な役割

- ① 本学会から国際内分泌外科学会、アジア内分泌外科学会の理事長および理事を輩出しており、多くの会員が上記両学会に正会員として参加し、内分泌外科学の国際連携に関して積極的に行なっている。
- ② 過剰診断が問題になっている昨今、本邦の内分泌外科医による成人の低リスク型甲状腺

微小乳頭癌の積極的経過観察の前向き試験結果から、海外のガイドラインにもこの概念が採用され、世界的な過剰診断の抑制に貢献している。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

- ① 内分泌外科疾患のガイドライン等による医療の標準、均てんか
- ② 専門医、指導医による地域医療への貢献
- ③ 内分泌学外科学の治療および学術研究による国民の健康福祉の増進に寄与する。

d. 学会運営上留意している点

- ① 複数にわたる基盤領域との十分な情報共有
- ② 特に外科学会のサブスペシャリティのひとつとしての連携
- ③ すべての都道府県への専門医、専門施設の維持に対する学会としてのサポート体制

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

- ① NCD への参加
- ② 甲状腺癌に対する分子標的治療薬に対し、日本臨床腫瘍学会、日本頭頸部外科学会、日本甲状腺学会（分科会非会員）との共同で、診療指針の作成と、診療連携プログラムの作成を行った（現在は休止中）。
- ① 外科学会のサブスペシャリティ領域の学会の一つとして外科関連学会専門医制度委員会に参加している。
- ② 日本泌尿器学会とともに副腎腫瘍取扱規約および非機能性副腎腫瘍ガイドライン作成に協力している。